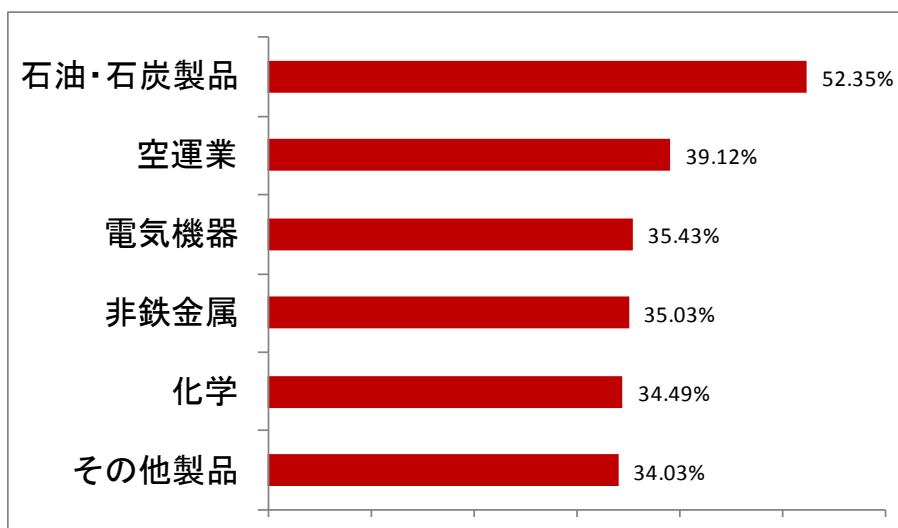


## セクター・パフォーマンス 明暗を分けたもの

今年は任天堂やソニーの復活などが目立ち、半導体関連や省力化投資で電機・機械のパフォーマンスが良いように思うが、意外にも1位は石油株。確かに原油価格はOPEC減産効果もあって堅調だったが、日本の石油はエネルギー産業というより、ガソリンの元売りだ。世の中は電気自動車の話題で持ちきりだし、日本では車を買う若者も減っている。後継者不足や人手不足もあってガソリンスタンドがどんどん減っている。衰退していくような産業のイメージだが、実はだからこそ業界の再編が進んだ。かつては20社ほどあった石油元売りは合従連衡が進んだ。出光と昭和シェルの合併は、出光創業家の反対でなかなか進まないが、いずれ統合されるだろう。今年4月のJXTGホールディングスの誕生で、上位4社の販売シェアは約9割に達する。ちなみに東証業種別株価指数「石油・石炭製品」に占める比率は1位のJXTGが6割超。ガソリンの供給体制と流通構造が変わり、需給が改善、ガソリン価格が安定してマージン(利幅)が稼げるようになったのだ。

### ベストパフォーマンス上位5位

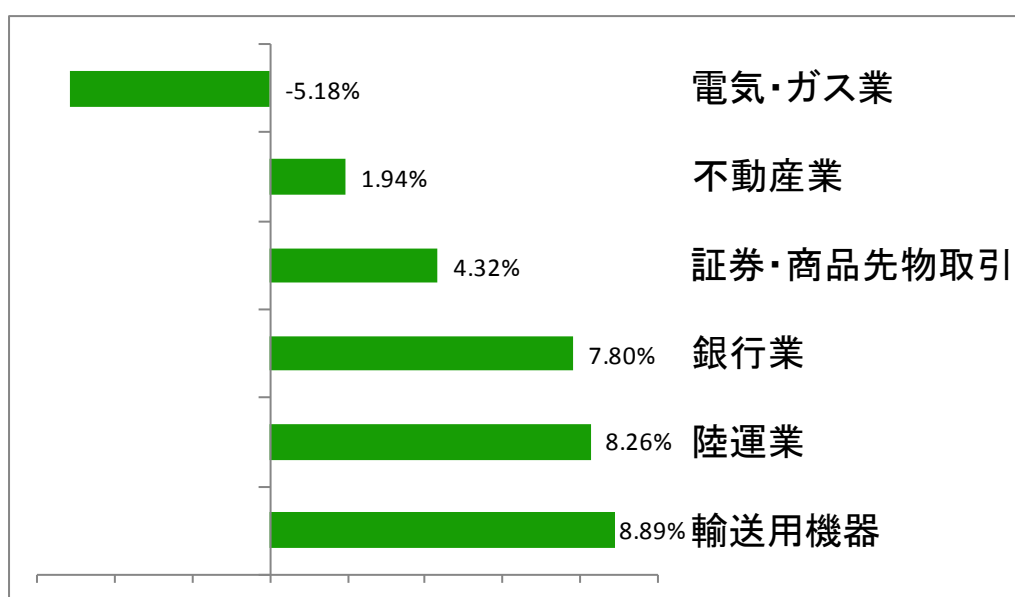


出所: Bloombergデータよりマネックス証券作成  
東証33業種別リターン 年初来、12月29日前場引け時点

反対にワースト・パフォーマーは電力。日経平均が26年ぶりの水準に上昇した今年、唯一マイナス・リ

ターンのセクターだ。原発の再稼働ができないなか火力にシフトしたが、円安と原油高で燃料費が増加し、発電経費が増大。電力会社の収益力は低下した。そこに平成 28 年から始まった電力の小売の完全自由化で、かつての「地域独占」が崩れている。従来の電力会社に加え、ガス、石油、通信など他分野からの参入が相次ぎ、家庭向け電力小売りの競争は激化している。さらに、今後、平成 30 年をメドに電気料金の自由化が進められる見通だ。「地域独占」は崩れているのに、いまだに各地域に電力会社が存在する。電力会社の再編は避けられないだろう。

### ワーストパフォーマンス上位5位



出所：Bloombergデータよりマネックス証券作成  
東証33業種別リターン 年初来、12月29日前場引け時点

**ご留意いただきたい事項**

当社は、本書の内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想及び判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。当社は本書の内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。本書の内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。内容に関するご質問・ご照会等にはお応え致しかねますので、あらかじめご容赦ください。

**利益相反に関する開示事項**

マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先金融機関より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号  
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会